

資料番号	18
------	----

令和4年11月18日
課名 商工労働局観光課
担当者 観光魅力創造担当監 矢野
内線 2420
課名 土木建築局空港振興課
担当者 空港連携担当監 増田
内線 4011

## 県産かきの海外販路拡大の展開について

### 1 要旨

県産品の海外販路拡大に向けて、令和3年度から「かき」を重点品目と定め、輸出促進に取り組んでいる。さらなる輸出拡大及び海外におけるブランド化を図るため、広島空港での出荷体制の整備やEU市場への新規参入のための支援に引き続き取り組む。

### 2 現状・背景

- ・日本産かきの輸出額は年々増加傾向にあり、令和3年の輸出額は29.2億円と、平成29年と比較して3倍以上となっている。
- ・県内の活かきの輸出は、主に他県（福岡、関西、羽田等）の空港から出荷しており、国内物流のコストとリードタイムがかかり、商品単価の上昇や品質に影響しているケースがみられる。一方、農林水産省は農産品等の輸出拡大を促進するため、地方空港を活用する事業を実施している。
- ・これまで国内のかきは輸出規制等の障壁でかきの消費が多いEU向けに輸出ができない状況であったが、この度、県内のかき事業者が全国で初のEU向けに県産かきの輸出に取り組む。

○日本産かきの輸出額の推移 (単位：億円)

	H29	H30	R1 (R31)	R2	R3
輸出額	9.6	16.7	18.2	18.4	29.2
(冷凍商品)	9.0	15.3	16.0	16.7	22.4
(冷蔵商品)	0.6	1.4	2.2	1.7	6.8

資料：財務省貿易統計

### 3 取組概要

#### (1) 広島空港での出荷施設の整備

県が昨年度（令和3年度）、かきの海外輸出促進のために県内かき生産事業者を中心とした協議会を発足し、その参画メンバー（5者で新会社を設立予定）の中からこの度、海外でニーズが高い活かき等の輸出拡大に向けて、水産庁の補助金を活用し、広島空港の貨物ターミナル内に出荷施設を整備し、令和5年1月から稼働を開始する予定。

オーストラリア式のカゴ養殖により養殖したカキを収穫し、広島空港に運び込み、新たに設置する浄化施設（県立水産海洋技術センターが開発した、紫外線照射により細菌を低減させる装置）を活用し、併せて商品のパッキングから発送までを同日中に行うことで、リードタイムの短縮を図る。



広島空港内施設予定



紫外線の浄化水槽



オーストラリア式養殖

- ・整備費用：35,280千円（国補助金：18,615千円，補助率1/2）
- ・事業主体：ひろしまOysters&Fishery

代表会社：広島魚市場(株)（広島市西区 社長：佐々木猛）

- ・参加事業者：(株)ファームスズキ，音戸海産(有)，(有)フルスイ，マルコ水産(有)
- ・敷地面積：70m<sup>2</sup>（7m × 10m）

## (2) EU市場への展開について

今年12月に県内のかき事業者のクニヒロ(株) (尾道市) が世界で最も厳しい衛生管理基準といわれるEU-HACCP (ハサップ, 危険度分析による衛生管理) の施設認定を取得予定であることから, 新たな市場開拓として, 国内で初めて, EUに向けたかき (冷凍殻付きかき) の輸出を令和5年1月から開始する予定。

輸出に先駆けて, 今年9月にかき事業者とともに出張し, EU現地の市場調査と各国のバイヤーや輸入業者とのヒアリングや商談を実施した。現地での県産の冷凍殻付きかきは, EU産のかきに比べ身が大きいことや火を通して縮みにくい, 濃い味などという理由から高い評価を得たところであり, 令和5年1月以降, コンテナ単位での取引開始も見込まれている。

## 4 今後の取組について

令和元年度の輸出実績の7.0億円を基準値に, 令和7年度に輸出額12.6億円を目指して, 生産体制の見直しや生産者の意識改革に取り組むとともに, 卸売業者や輸出業者と連携した物流の整備により安定した商流を構築し, さらなる輸出の拡大を図る。

○県産かきの目標輸出額

(単位:億円)

	R3	R4	R5	R6	R7
輸出額	7.8	8.7	9.8	11.1	12.6

※R3の実績は, 11月末頃判明予定